

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

三位一体型「子どもスポーツ苦手」解決」柏プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

柏市

3 地域再生計画の区域

柏市の全域

4 地域再生計画の目標

柏市は、千葉県の北西部に位置し、人口 39 万人を擁する県内 2 番目の中核市である。JR 常磐線、東武野田線、首都圏新都市鉄道線の鉄道 3 路線のほか、国道 6・16 号、常磐自動車道が通り、交通の要衝となっている。その高い利便性から、ベッドタウンとしての開発が進み、柏駅周辺を中心に、商業集積により多くの若者や買い物客で賑わっている。また、利根川や手賀沼などの自然環境にも恵まれ、都会の街並みと自然の豊かさが調和した都市である。更に近年は、北部の柏の葉地区を中心に、新産業の創出や、東京大学・千葉大学を中心とした、先進的な学術都市としての一面がクローズアップされつつある。

今後こういった本市の中心になり次代を担っていくのは、今の子ども達である。子どもは地域の宝であり、最も貴重な「資産」である。本市では、次代を担う彼らが「生きる力」を身につけ、将来にわたる夢を持ち、自己実現を目指すことができるような教育を推進している。このためには、学校と家庭や地域社会が連携を図り、暖かい人間関係のなかで子どもを育む環境づくりが必要である。

一方、全国的に子どもの体力の低下や運動の二極化が叫ばれて久しい。近年は一時期ほど顕著な低下傾向はなく、下げ止まりとは言われているが、平成 20 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、ほとんどの種目で昭和 60 年度の記録平均を下回る結果となった。また、同調査では子どもの食習慣・ゲームに費やす時間等と体力の関係など、子どもの生活習慣の変化が体力低下の一因になることも明らかになっており、これらは本市においても全く同じ傾向にある。

平成 21 年度より移行期間に入る新学習指導要領では、基礎学力や活用型学力といった学習面の充実だけでなく、道徳教育や体育などの充実によって豊かな心と健やかな体を育成することが謳われており、「知・徳・体」のバランスのとれた人格形成がその目指すところとなっている。具体的には、学校教育においては、体育の授業時数の増加と保健も含めた指導内容の充実が図られるが、生活習慣が影響する以上、学校だけではなく、先に述べたように家庭や地域社会の理解と協力を求めることが体力向上のために不可欠であるといえる。

これらのことから、本計画は、学校と家庭・地域社会が連携して子どもたちの心身ともに健やかな成長を図ることにより、地域社会の活性化を目指すものとする。

(目標1) 体力向上を目的とした地域ネットワークの構築と、その自主的・自立的かつ継続的な活動を持続するための環境整備を目指す。

(目標2)

- ・指導員の養成
3校×3名=9名
- ・子どもの体力増加
モデル教室への参加児童の体力 →増加
- ・スポーツが苦手な子どもの減少
モデル教室への参加児童のうち「スポーツが苦手」と回答した児童の率 →減少
- ・逆上がりができる児童の増加
モデル教室への参加児童の50%

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

子どもの体力低下や二極化が叫ばれて久しいが、この改善のためには、学校だけでなく家庭・地域社会が連携して取り組むことが必要である。本事業では、地域の宝である子どもたちを、学校と家庭・地域社会が連携して育み、心身ともに健やかな成長を図ることによって、地域社会の活性化を目指す。

具体的には、子どもが苦手意識を持ちやすい鉄棒を題材にしたモデル教室を開催することで、子どもの運動技能の向上と鉄棒への苦手意識の解消を図る。また、この教室の開催を通して、地域の中にスポーツの指導者を育成するとともに、今後もこの教室が地域社会の中で自主的・自立的かつ継続的な活動となっていくことをねらいとした環境整備を進めていく。

5-2 法第5章の特別の措置を適用して行う事業

該当無し

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置による取組み

【B2001】官民パートナーシップ確立のための支援事業

実施主体 NPO法人スマイルクラブ

実施期間 認定の日から平成22年2月末まで

事業内容 学校・自治体・NPOの協働により、下記の事業に取り組む。

本事業は、主に①学校・自治体・NPO・専門家によるプロジェクト委員会の結成と開催、②マニュアルの作成と研修による指導者の養成、③スポーツ

啓発リーフレットの作成と配布，④「“スポーツ苦手” 解決プログラム」のモデル教室（主に鉄棒が中心）の開催，⑤モデル教室の評価（技術レベル，アンケートの実施等）と課題のリストアップ，⑥報告書の作成による事業全体評価，の6つの内容で構成されている。

①学校・自治体・NPO・専門家によるプロジェクト委員会の結成と開催

スポーツ専門家として筑波大学長谷川聖修教授，同じく流通経済大学高松薫教授，健康全般の専門家として聖路加看護大学中山久子講師，学校側代表として柏市立小学校校長・教頭・教諭等5名，行政側代表として柏市教育委員会体育担当指導主事1名，スマイルクラブ事務局として5名の合計14名で構成し，年5回程度の開催を予定している。

②マニュアルの作成と研修による指導者の養成

指導カリキュラム，技術レベル評価基準，指導メニュー等で構成された，150ページ程度の指導マニュアルを作成する。④で述べるモデル教室では，鉄棒の指導が中心だが，このマニュアルはそれだけでなく，広くスポーツが楽しめる内容とする。また，このマニュアルを活用して，モデル教室会場校1校あたり3名程度の指導者の養成を目的とした研修会を開催する。指導者は，体力向上を目的とした地域ネットワークの構築と，その自主的・自立的かつ継続的な活動の維持につなげる狙いから，基本的にそれぞれの学校区内から発掘していく。

③スポーツ啓発リーフレットの作成と配布

スマイルクラブが平成20年度文部科学省委託事業「子どもの生活リズム向上のための調査研究」を受けて作成したリーフレットをもとに，スポーツ活動を中心とした内容を追加して作成，配布する。作成部数は，モデル教室会場校1校あたり500部を目安とし，会場校以外への啓発用も含めて合計2,000部を予定している。

④「“スポーツ苦手” 解決プログラム」のモデル教室（主に鉄棒が中心）の開催

苦手意識を持つ児童が多い「鉄棒の逆上がり」の指導を中心とした教室であり，この教室終了後には参加者の50%が、逆上がりができることを目指す。市内の3つの小学校を会場とし，各会場で8回ずつ開催する。1回の教室は，下記の内容で構成している。

場所：屋外の鉄棒とその周辺を利用（雨天時は体育館）

時間：1時間（平日の放課後を予定）

人数：募集人員20名，指導者3名

構成：1部：準備体操5分

2部：補強運動（調整力，走，筋力運動など）20分

※補強運動は子供たちが楽しんでできるメニューを開発し

導入

3部：主運動（主に鉄棒）30分

※逆上がりができるための段階的指導メニューを導入

4部：整理体操5分

※単に逆上がりの技術だけでなく、スポーツの楽しさも伝えられるメニューも取り入れる

募集方法は、この教室の案内チラシを作成（500部×3校+500部=2,000部）し配布する。用具等については、雨天時には体育館で行うため、館内に仮設する鉄棒等の機器類をリースで確保するほか、2部のメニューで利用する消耗品（ボールや縄跳び等）も準備する。

⑤モデル教室の評価（技術レベル、アンケートの実施等）と課題のリストアップ

モデル教室を、技術達成度の客観的評価、参加者等へのアンケートによる主観的評価によって評価する。

⑥報告書の作成による事業全体評価

上記①から⑤までの取組みに基づき、将来的な方向性も視野に入れて事業全体の評価を行う。

この事業の主体はNPO法人スマイルクラブであるが、学校が会場となることから、プロジェクト委員会と学校の連絡調整は教育委員会が行う。主な内容として、モデル教室の実施希望調査の実施、本事業の評価への協力の依頼、実施報告書等による全市立小学校への広報、周知などを行う。

また、モデル教室の会場校では、参加児童の募集と選考、会場準備、医療機関との緊急連絡体制の確認、参加児童やその保護者に対してのモデル教室評価への協力依頼などを行う。

5-3-2 支援措置によらない支援措置による取組み

小学校体育の事業サポート事業

実施主体 NPO法人スマイルクラブ

実施期間 平成18年度開始（継続中）

事業内容 自治体・NPOの協働により、下記の事業に取り組む。

①特別支援学級における体育授業のサポート

・特別支援学級担当教諭と協議の上、指導のサポートを行う。

②特別支援学級における児童の体力及び運動能力向上のための指導方法に関する提案と、指導のサポート

・種目ごとに、児童の実態や障害の程度・種類に応じて、ステップごとに進めていく指導や、運動プログラムについて提案し、指導のサポートを行う。

- ・ 基本的な身体の動かし方のトレーニングステップや、準備運動や整理運動等のプログラムについて提案し、指導のサポートを行う。
- ・ 補助具や教具を取り入れた効果的な指導について提案し、指導のサポートを行う。
- ・ 雨天時等に、教室などの限られた空間での効果的な指導について提案し、指導のサポートを行う。

6 計画期間 平成22年2月末まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

- ア) プロジェクト委員会による計画の管理と自己評価
- イ) 指導者養成研修参加者による評価（アンケート等）
- ウ) スポーツ啓発リーフレットの活用状況調査（アンケート等）
- エ) モデル教室に参加した児童の技術達成度評価，意識調査（アンケート等）

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し